

【特集：第20回 建築祭】 「素直」な建築

(株)山崎健太郎デザインワークショップ
山崎 健太郎 代表取締役



文化講演会



長野県学生卒業設計コンクール審査風景

2日間、松本で過ごして感じたことを書いてみたい。今回は高校生から専門学校生、そして大学生まで、幅広い年代を対象とした審査であり、私にとっては初めての経験だった。実際に向き合ってみて、特に印象に残ったのは高校生の発表に宿る新鮮さである。アイデアが実に素直なのである。私が普段接している大学生は、発表の際、携帯に保存した原稿を読み上げることが少なくない。しかし、読み上げる言葉はなかなか人に届かない。今回出会った高校生は、自分の言葉で率直に語っていた。その姿勢に心を動かされただけでなく、提案内容もよく練られたプランであったことに驚かされた。一方で、信州大学の学生たちの提案もまた印象深かった。プラクティカル（実践的）な視点を備えた案が多く、私たち審査員と同じ目線で、審査というよりも、同時代に建築をつくる専門家同士として対話ができ、清々しさを覚えた。ともに審査を行った建築家たちのコメントからは、複雑な現代社会の中で悪戦苦闘しながら建築に向き合っている実践者の姿勢がにじみ出ていた。それを率直に学生へ投げかける言葉は、確かに若い世代に届いているように感じた。環境を損なう提案になっていないか、当事者の状況を本当に理解しているか。コメントの解像度は高く、核心を突かれれば、提案はたちまちその軽さを露呈する。新しさや斬新さを競うのではなく、地に足のついた提案が際立っていたように思う。しかしその一方で、建築空間としての強度にまで到達することの難しさも感じた。理念や希望はあっても、形として結実させ

ることは容易ではない。審査員たちは、「私たちもまた建築に悩み続けている」ということを伝えているようだった。

審査会当日、JIAの皆さんが会場へ向かう道すがら、松本の街を案内してくださった。気候は快適で散策に心地よく、どこを歩いても街並みの向こうには美しいアルプスの山並みが望める。水路の上に連なるスナック街や人形町、センスのよい古本屋カフェ、明治期に建てられた銀行をホテルのラウンジとして再生した建物など、古い街並みと現代の営みが巧みに折り重なっている。とりわけ水路沿いの道を歩きながら、遠くに見える山脈と、そこから流れ出る雪解け水が水路を通して街へとつながっていることに気づく。大きく周りを取り巻く自然環境と、ここを歩く私たちの小さな身体とが、つながっている感覚があるのだ。大学で学生と向き合う中で、つくづく建築は「教えられるもの」ではないと感じていた。設計ができる人には、必ず原風景がある。今回出会った「素直な建築」の背景にも、学生たちの中にこの原風景があるように思う。同様に、JIAの建築家の方々もまた、素直で誠実な人たちであった。この環境が育んできた建築文化の一端に触れることができた意義深い審査会であった。



第 20 回建築祭を終えて

事業委員長 鎌田 賢太郎

この会報への原稿依頼を広報委員長より預かった際に、「えー面倒だな、AIに書いてもらおう!」と冗談半分本気半分でお受けした。2日間の建築祭の委員長としてクタクタになり三才山峠を越えて帰宅した数分後、メールが一本届いた。今回講師としてお招きした山崎健太郎先生から、本会報に掲載されている寄稿の原文が添付されていた。山崎先生は1歳年下で、実は今回講師にお呼びする上で、密かに複雑な感情を抱いていた。これまで講師としてお会いした建築家は全て年上。「年下で活躍する建築家への嫉妬心を感じるの

ではないか?」しかし、お会いして、講演を聞き、そんな感情は一瞬にして消え去った。正直、敵わない!というか、建築家としての姿勢に尊敬の念を抱き、ファンになってしまった。そして僕の数少ない尊敬する建築家に仲間入りされた。本会報に掲載されている山崎先生の寄稿は、メールの到着時間より松本から帰路のあずさの車中で書かれたはずである。前日は2時間の講演会をし、懇親会も遅くまで付き合っており、当日は審査委員長としてろくな休憩時間も与えられず8時間で52作品を審査し、帰路のあずさでは寝るのが当たり

り前のはず...メールを受けた瞬間に、手を抜こうとした自分が恥ずかしくなった。

やはり突出する建築家は、設計が上手いだけでなく、人間性も突出している。JIAに所属して面倒な事も多々あるが、本物の建築家になって得られる糧は、それ以上の価値がある。その為に会に所属していると言っても過言ではない。ありきたりな寄稿文をAIで片付けるつもりだったが、山崎先生へ湧き上がった尊敬の念をココに残し、自戒の念とする。

そして、今回の建築祭に関わってくださった皆さまにも、改めて感謝申し上げます。ご協力頂き、ありがとうございました。

長野県学生卒業設計コンクール受賞者の声

【大学生の部金賞】

信州大学工学部建築学科
梶間 千愛



大学の部受賞者

前列中央が梶間さん 前列右が鎌井さん

「卒業設計を経て」
信州大学の梶間と申します。この度の卒業設計コンクール大学生の部では自分の卒業設計の成果を発表の場で伝えることができ、金賞をいただけたことを大変嬉しく思っております。卒業設計では4年間長野で学んだ集大成として長野県を対象敷地に設定したいと考えていたので、長野県の名所の一つである諏訪湖を対象に設計を行いました。設計を行うに当たり諏訪湖について様々なことを調べたり足を運んだりしていく中で初めて知ることが沢山あり、そこで得た知識をどのように問題解決に繋げるかであったり、より諏訪湖の魅力を引き出すにはどうすればいいかを考えるのが楽しかった設計でした。私は今、地域に愛される建築を設計するにはどうすればいいかということに興味を抱いています。その中で、卒業設計の講評や山崎先生の講演会は大変貴重で参考になるお話でした。今回の経験とお話しいただいたことを胸に今後の大学院での研究や設計にも励んで参りたいと思います。

【市民賞】

信州大学工学部建築学科
藤井 愛理



専門学校の部受賞者

「誰かに届く建築を目指して」
卒業設計ではテーマがなかなか定まらず、最終的に二か月弱という限られた期間で取り組むことになりました。まだ至らない点や、もっと検討を重ねたかった部分も多く、理想に届かなかったという思いが正直なところです。それでも審査員の方々に加え、一般の方に作品を見ていただけたこと、そして市民賞という形で評価をいただけたことを大変嬉しく思っています。普段は専門家からの評価が中心ですが、実際に建築を利用する立場の方から共感をいただけたことは、大きな励みになりました。これまで「コンペ向きではない」と言われ悩むこともありましたが、使う人が心地よいと感じ、訪れたい空間を丁寧に考えてきた姿勢が、誰かの心に届いたのだと感じています。これからも自分なりの視点を大切にしながら、建築に向き合っていきたいと思

※市民賞は全52作品中、来場者の投票で最多得票を得た作品に贈られる賞です

大学の部(14作品 14名参加)

専門学校の部(11作品 14名参加)

高校の部(27作品 27名参加)

- 金賞** 梶間 千愛
還りゆく諏訪湖へ贈る花束
ウェットランドの再生による湖上植物園
- 銀賞** 廣瀬 駆
HARBOR DRIVE-CINEMA PARK
犬洗フェリーターミナルの待機を日常にひらく立体駐車場型シネマパーク
- 銅賞** 鈴木 利康
リ・リ・リフレーミング
日常の風景を再編する建築
- 奨励賞** 喜田 ひなた
こどもとまちの結節点
-道具的公共としての商店街更新計画-

(信州大学)

- 金賞** 大門 真優/村木 大志
紡ぐ ~50年後の私たち~
- 銀賞** 茂木 琴実
Grazie
- 銅賞** 市川 結翔/阿部 美月
記憶を宿す布層 ~想いと素材が交差する参加型建築~
- 奨励賞** 児玉 美央
まちのめばえ

(上田情報ビジネス専門学校)

- 金賞** 坂井 八雲 (長野工業高等学校)
記憶に残る避難所
- 銀賞** 木下 遼生空 (飯田 OIDE 長姫高等学校)
一息の拠り所
- 銅賞** 宮下 翔 (飯田 OIDE 長姫高等学校)
Valley Core 14
- 奨励賞** 壬生 明里 (飯田 OIDE 長姫高等学校)
ずっと、ふるさと。

新入会員紹介 (法人協力会員)

【チャンネルオリジナル (株) 名古屋営業所 前田雄太】

いつもお世話になります。チャンネルオリジナル株式会社の前田と申します。昨年の12月より法人協力会員として、入会させていただきました。弊社は、社会の財産となる「建築の外観創り」を実現すべく、防火構造認定取得のウイルウォールから国産材にこだわった木製外壁まで多数ラインナップを取り揃えております。自然豊かな長野の地で長く愛される外観・ランドマークに携われるよう熱量を持ってご提案させていただけたらと思います。また、弊社は「わくわくする」オリジナルによる顧客満足度No.1の資材会社を目指しております。建築家の皆様のアイデアをいただきながら革新的な製品が提供できたらと思いますので、ご教授いただけますと幸いです。引き続き宜しくお願い致します。



【(株) 柳沢林業 原薫】

柳沢林業は、長野県松本市で60年以上にわたり、山と向き合ってきた林業の会社です。「木を活かすことは山を生かすこと」という考えのもと、先人たちが長い年月をかけて育んできた山の木の適切な伐採や環境の整備を行うことで、たくさん生き物が暮らせる豊かな環境を未来につないでいます。木を伐ったり育てたりするこれまでの林業だけでなく、キャンプ場の運営やツアー、研修の受け入れ、ものづくり体験など、人が自然に触れることで本来の自分に気づききっかけをつくり、豊かな山からの恵みを様々な商品に変えて、暮らしの中に届けることにも力を注いでいます。信州松本平の豊かな山の風景、そして街に温もりや癒しをもたらす木の風景を提供できるよう、JIAのみなさまとの協働を目指したいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



開催したイベント

3月15日(日)に「信州の建築家とつくる家 第21集」発刊しました。

今後の行事予定

- 4月3日(木)・・・監査
- 4月7日(金)・・・幹事会(第5回)
- 4月17日(金)・・・2026年度通常総会(ホテル犀北館にて)

編集後記

建築祭を中心にお届けします。原稿をいただきました皆様、ありがとうございました。発刊作業は慣れる頃には作業が終わりの繰り返しでしたが、ひとまず2年間を終えることができました。これからも「建築家通信」のご愛読よろしくお願いたします。 広報委員会委員長 小澤伸行



公益社団法人日本建築家協会

編集人/小澤伸行 発行人/山田 健一郎
発行所/JIA 長野県クラブ
長野市南長野妻科 426-1 長野県建築士会館内
TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
https://www.jia-nagano.com
E-mail info@jia-nagano.com